

メイチゴツナギ、ナツノハナワラビ、キブシ、キンラン、ハリギリ、チゴユリ、コトウヅル、ツルアリドオシ、ソヨゴ、アクシバ、マズレグサ、ウラジロノキ、カマツク、ナツハゼ、ウメガサソウ、等が見られる。かくするうちに時計は11時50分、やゝ平坦な所を出たので昼食を取る。

食後の道は益々けわしい。この當りにも前記の植物が再三出て来るが、その外に、キクバドコロ、キヌタソウ、ツバナ、コメガヤ、ツルニンジンも現れた。更に登るにつれ

ツバキ、サルナシ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、ヤマガシウ、ウラジロサルナシ、エノキ、エゾイボタ、ミズナラ、シナノキ、イヌザンショウ、アサクラザンショウ、ミスミソウ、スハマサウ、リウノウギク、クロウメモドキ、オオバギボウシ、イヌザクラ、ハウチワカエデ、クザイソウ、イヌヨモギ、ツクバネ、キハダが現れ、特にキハダが非常に多い。

午後2時頃頂上に着く。この山は高くはないが樹木の伐採少く、しげつて植物相は豊富で有り、特に頂上にある大杉(目通り8m) ヤマナラシ(目通り2m)、モミ(目通り1.2m)等が保存されて居る事は珍しい。この外頂上附近には、オオカニコウモリ、キツコウハグマ、クマシデ、ミヤマハハソ、コバノトネリコ、ブナ、クリノキ、マルバマンサク、オオベノハチジョウシダ、ヤマヨモギ、キヨタキシダ、ミヤマシケシダ、サワグルミはこの方面にはあまり見られないものである。

帰りは道を別にとり山の裏側を出た。ここには集塊岩より成る大岩壁があり、イワデンダ、ヒモカズス、イブキジャコウソウ、リウノウギク、マルバマンネングサ、ミツバベンケイソウ、コオニユリ、「ワヒバ等が附着して居た。ここにツメレンゲがあると云うので、大分探しにが帰途を急ぐので空しく引上る。

柳部落附近でのミツマタ畠は山村特有の眺めとして印象的であった。

かくて採集を終えに一行は、午後5時鉄花発のバスで帰途についた。

[寒蟬義一記]

郷土研究紹介

北陸地方の中新生代植物化石について

その1. コムアントニフキルム属

(自然と社会 12号; 1954年2月)

金沢大学理学部地質学教室 松尾秀郎

標題の如く北陸地方に産する中新生代の植物化石コムアントニフキルム属について記載してあるが、本県奥様のものとして丹生郡田見村船川産のもの(標本所蔵 福井市立郷土博物館)が新産地として記載してある。